

◆ 関西外国語大学 国際言語学部 教授

大久保 恭子 (おおくぼ きょうこ)

○ 略歴：

- ・ 1996 年 大阪大学大学院文学研究科芸術学専攻博士課程単位取得終了
- ・ 1997 年 大阪大学文学部文部教官助手
- ・ 2002 年 関西外国語大学国際言語学部助教授
- ・ 2008 年 関西外国語大学国際言語学部教授～現在

○ 学位：博士（文学）（大阪大学）

○ 講演題目： 芸術と社会：人はパンのみにて生きるにあらず

○ 講演概要： ひとは芸術とどのような関わりを持ってきたのでしょうか？それがなくてもひとは生きていける、昨今そのような風潮があるように感じる方は多いのではないのでしょうか。しかし歴史を振り返れば 19 世紀の中頃、シャルル・ボードレーはフランスのブルジョワに芸術を理解することの重要性を説き、「諸君はパンなしに 3 日間生きることができる。一詩なしには、決して」と訴えました。市民革命に端を発して 19 世紀のフランスは近代国家へと変貌していきます。その激動の時代に芸術も揉まれ、新古典主義とロマン主義の対立に始まる保守と前衛の二項対立構造の中、前衛はレアリスム、印象主義、ポスト・印象主義と次々に新しい芸術運動を生み出していきました。社会が大きく変化するとき、当然の事ながら、芸術もまた激しく動いていたのです。本講座では芸術と社会がどのように関わってきたかに軸足をおいて、19 世紀フランス美術の変遷を、具体的に作品を分析しながら解説いたします。